

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

1-⑧

施策
学校, コミュニティ, 家庭が連携し, 子どもの健全育成を推進する

担当部局
 教育委員会



【はぐくみ】 めざすまちの姿 学校, コミュニティ, 家庭が連携して, 子どもが学び, 成長できる環境となっている

市の基本方針

- 地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進めるため, 地域ボランティアやボランティア活動の総合的な調整役を担うコーディネーターの養成に努めるとともに, 効果的な学校支援活動を実施し, 地域と学校の一体感を醸成します。
- 学校や地域の活動の中で, 子どもたちが地域の歴史・文化を学んだりスポーツを楽しんだりする機会を推進し, 地域に対する理解と地域住民との交流を深めることで, 子どもたちの地域の一員としての自覚と誇りをはぐくむとともに健やかな成長を支えます。
- 放課後や週末等に小学校の余裕教室などを活用し, 地域住民と子どもたちが一緒になって行う, 学習やスポーツ, 文化活動, 地域住民との交流活動などを支援します。
- 家庭, 学校, 地域, 関係機関や団体等と密接に連携し, 青少年の健全育成施策を推進します。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
子どもの学校での教育について, 学校, 家庭, 地域の連携ができていると思う人の割合	↑	市民アンケート調査で「子どもの学校での教育について, 学校, 家庭, 地域の連携ができていると思いますか。」という設問に対して, 『できている』『どちらかというのできている』と回答した人の割合。
		<p>動向(Ⅰ)/内訳(Ⅱ)/分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 基準年に比べ, 3.8ポイント上がり, 前年度に比べ, 0.4ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P8】</p> <p>(Ⅱ) 「できている」「どちらかというのできている」と答えた人の割合は, 16~19歳と40歳代が高い。地区別では「できている」「どちらかというのできている」と答えた人の割合は, 真備地区で高く, 船穂地区で低い傾向がある。</p> <p>(Ⅲ) 実績値は, 平成26年度以降はおおむね横ばいとなっている。これは, 地域と学校が連携する取組が定着したことによるものと考えられる。</p>

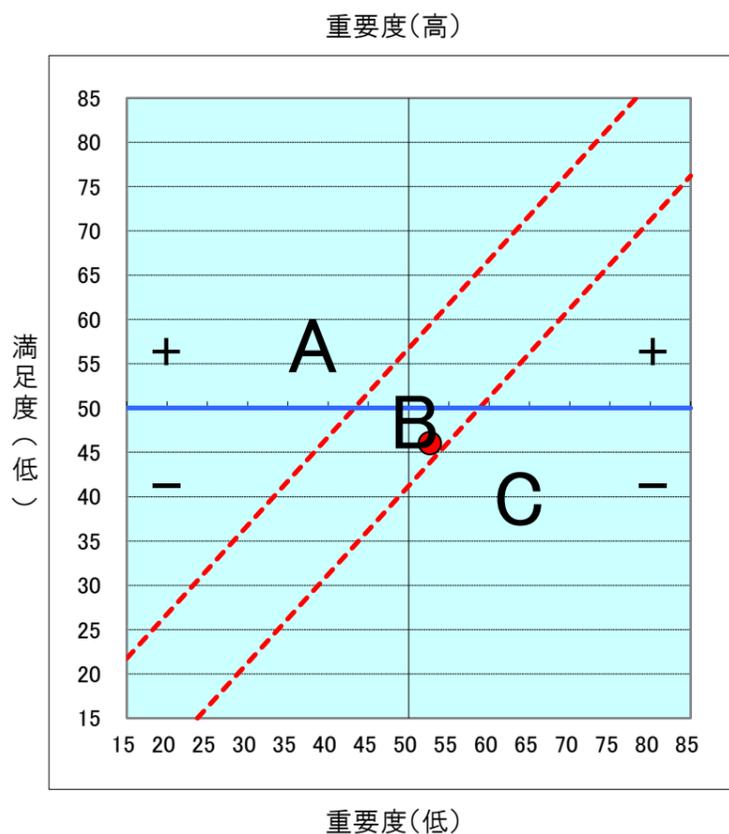
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
学校で活動している地域のボランティアの数	↑	各学校からの報告を市で集計
		<p>動向(Ⅰ)/内訳(Ⅱ)/分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は, 前年度に比べ, 32,605人増えた。</p> <p>(Ⅱ) 地域連携による学校支援事業実施校58校(前年度は51校)において, ボランティア登録者は5,816人(前年度は4,887人)であった。 ※グラフの数値は延べ人数を計上している。</p> <p>(Ⅲ) 事業の実施内容に学校外での「地域活動」を追加したことで, 実績値が増えたと考えられる。</p>

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
学校・家庭・地域が連携した事業に参加した子どもの数(人/年度)	↑	放課後子ども教室へ参加した子どもの数 ※H24までは、「いきいき子ども支援の会主催事業、放課後子ども教室へ参加した子どもの数」。H25より、いきいき子ども支援推進事業を放課後子ども教室事業に統合した。
		<p>動向(Ⅰ)/内訳(Ⅱ)/分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、109,438人増え、前年度に比べ、14,991人減った。</p> <p>(Ⅱ) 実施校区63小学校区(前年度は62小学校区)で、2,490日(前年度は2,785日)実施した。</p> <p>(Ⅲ) 7月豪雨災害の影響で、真備地区内での実施回数が減ったことが子どもの人数減につながったと考えられる。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)/平成30年度の主な実績(Ⅱ)/今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
重創	地域連携による学校支援事業(再掲)	(Ⅰ) 地域全体で学校教育を支援する体制を整え、生涯学習の成果を活かした地域住民による学校支援活動を推進することにより、子どもたちの豊かな人間性を涵養するとともに、地域の教育力の活性化を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 小学校区39カ所、中学校区18カ所、支援小学校区1カ所で事業を実施した。ボランティア登録人数は5,816人、延べ194,576人のボランティアが学習支援や環境整備、地域活動などの学校支援活動に参加した。 (Ⅲ) 実施校拡大を図りながら継続して実施する。	34,441
	「生きる力」支援事業	(Ⅰ) 不登校及びその傾向にある子どもたちの「生きる力」の育成に努め、自立を支援するとともに、保護者の心理的負担を軽減することを目的に実施した。 (Ⅱ) 自宅に引きこもることなく、地域社会との接点として開設した「居場所」には、延べ462人が参加した。また、保護者の心理的負担を軽減するため「保護者の集い」を年8回開催し、延べ30人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	975
	子ども会支援事業	(Ⅰ) 次世代を担う子どもたちを心豊かにたくましく成長させるために活動している「倉敷市子ども会連合会」を積極的に支援することを目的に実施した。 (Ⅱ) 健全な子どもの育成を目的とした子ども会の運営のため、補助金の支給などを行うことにより、集団指導者養成講習会や球技大会などの倉敷市子ども会連合会の活動を支援した。年間行事計画のうち、平成30年度は天候の影響でジュニアリーダー3市交流会は中止とした。(令和元年度は開催予定) (Ⅲ) 継続して実施する。	2,601
創	放課後子ども教室推進事業(再掲)	(Ⅰ) 子供たちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動等を行うことを目的に実施した。 (Ⅱ) 63小学校区で実施。実施日数は、合計2,490日、小学生延べ225,931人とボランティア延べ20,794人が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	7,797
	青少年健全育成推進大会実施事業(再掲)	(Ⅰ) 倉敷市における、青少年の健全育成に対する市民意識の高揚を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 第41回倉敷市青少年健全育成推進大会をライフパーク倉敷で実施した。各中学校区青少年を育てる会活動状況展示や青少年健全育成功労者表彰、明るい家庭づくり作文発表、講演会などを実施し、362人が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	427
	青少年育成センター非行防止活動事業	(Ⅰ) 青少年の健全な育成保護のために、関係機関及び団体等と連絡調整を図り、青少年の非行を防止するとともに、非行青少年の補導に努めることを目的に実施した。 (Ⅱ) 補導員による街頭補導を年間264日実施し、1,864人を補導した。相談は、電話・メール・来所相談を実施し、相談件数は765件であった。広域列車補導や学校警察連絡協議会等の青少年健全育成活動を行うとともに、関係機関との連携を深めた。 (Ⅲ) 非行防止、不審者対策、環境浄化活動、相談等、地域と協力しながら青少年健全育成活動を継続して実施する。	55,856

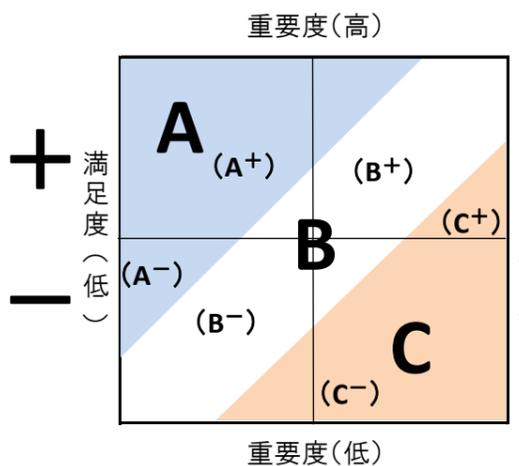
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
B ⁻	46.02	52.65

●重要度に見合った満足度が得られている(B)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A:重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B:重要度に見合った満足度が得られている領域
 C:重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +:重要度が平均値より高い部分
 -:重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺:重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 青少年の健全育成に取り組む団体の連携を更に深めていく必要がある。
- 不登校・ひきこもり傾向にある子ども・若者への支援体制について、官民の連携を図る必要がある。
- 不登校児童・生徒をもつ保護者の負担軽減を図っていく支援体制の充実と情報発信を図る必要がある。
- 放課後子ども教室推進事業に関わるボランティアと、次代を担うコーディネーターの不足が課題である。

今後の取組み方針

- 青少年を育てる会と少年補導委員連絡会合同での研修会を開催し、青少年の健全育成に携わる団体同士の連携が深まる取組の充実に努める。
- 不登校・ひきこもり傾向にある子ども・若者の支援について、官民の関連機関と連携を図りながら子ども・若者の自立支援に努めるとともに、支援に携わるボランティアを対象とする研修会を実施する。
- 不登校の子どもたちを養育する保護者の悩みや不安を相談できる体制の充実と、情報が適切に届くよう情報発信を図っていく。
- 放課後子ども教室推進事業について、ボランティア・コーディネーターを対象とした研修会を開催するとともに、積極的に情報提供を行うことで、地域の人材発掘に努める。